

学校名	新座市立第三中学校
実施日	令和3年1月21日

<記入の仕方> ○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。

○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「独自」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	学校は、各教科において「授業の見える化」を図り、生徒の意識的に学ぶ姿勢を向上させるような取り組みを実践している。	A	昨年の本評価3.56から今年は3.42と-0.14。特に授業の中で「見通し」を持たせる学習活動、「振り返り」の学習活動を意図的に行うことに力を入れてきた。「課題」「まとめ」の黒板表示カードを全教室に常備している。下位層の生徒への手だて、指導の工夫の研修が必要である。	A	・「見通し」「振り返り」など授業の流れについて学校全体で取り組み、「授業の見える化」に取り組み推進しているのがうかがわれる。 ・長男が7年前に卒業したが、その頃に比べて、黒板がわかりやすく、表示カードの導入によってノートもまとめやすいと感じる。表示カードの提示をパターン化することで、生徒も振り返りや学習の流れをつかみやすくなると感じる。
2	学校は、体験的な学習や問題解決的な学習、生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習を適切に行っている。	B	昨年の本評価3.49から今年は3.33と-0.16。コロナ禍による制約がある中で、スポーツフェスティバル(各学年)、コーラスフェスティバル(3年)などで生徒の自発性を育成した。工夫をしながら取り組むことができた。	B	・コロナの影響で様々な行事が中止となったが、工夫をこらして学校独自に実施している行事もあり、高い評価に値すると思います。 ・コロナ禍の中制約がある中スポーツフェスティバル、コーラスフェスティバルなど生徒の励みになり大切な思い出になったと思う。全体的には、できなかったこともあるというのでBとした。
3	学校は、視聴覚教材や教育機器、コンピューターや情報通信ネットワークを効果的に活用した授業を行っている。	A	昨年の本評価3.48から今年は3.47と-0.01。タブレットが40台導入され各教科の授業で広く活用されている。英語ではアメリカとのオンライン授業を行った。4、5月の臨時休校期間に教師が学習動画の作成の研修を積み、多くの教科で学習動画を配信することができた。	A	・休校中の動画配信は大変評判が良かった。ネットワーク工事が完了したあと、どのように活用するのか注目しています。 ・コロナ禍でコミュニケーションが取りにくい反面、オンラインやタブレットの活用など新たな取り組みが行われ良かったと思う。

評価項目「組織運営」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は校務分掌や主任制を適切に機能させるなど、組織的な運営・責任体制を整備している。	A	昨年の本評価3.67から今年は3.47と-0.2。学校教育目標の職員、生徒の認識率100%をめざし取り組んでいる。十分な学校教育目標への理解のもと、校務分掌の主任が機能し、学校が経営されている。継続を重視して校務分掌体制が維持されてきたが、合理的なしくみ、教員の負担軽減を視点に見直しを進める時である。	A	・校務分掌は適材適所といわれるが、軽重があまり偏らない工夫も必要である。他の分掌をやることで、互いに理解できることもある。 ・組織的な体制に整備されていると思うが、負担が重い方がいると思う。
5	学校は経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて、PDCAサイクルに基づく学校経営を行っている。	A	昨年の本評価3.64から今年は3.60と-0.04。自己評価シートの作成にあたっては学校教育目標との連鎖をお願いしている。年度末の学校評価だけでなく、行事が行われるたびに、職員のアンケートを行い審議をして、次年度の改善の方針を年度内に立てている。	A	・子どもと先生の動きを見ているとこの項目は判断ができる。 経営方針を基に、一人一人の教職員が何ができるか、何をすべきか考えて取り組んでいると思う。PDCAサイクルが機能することで、学校力につながっている。 ・アンケートによって広く意見を取り入れている。
6	学校は事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	B	昨年の本評価3.45から今年は3.35と-0.1。危機管理マニュアルが整備され年度当初に確認をしている。防災意識の啓発のため2学期、3学期の当初に危機管理マニュアルの回覧を行っている。年度初めの会議資料に危機管理マニュアルを入れていなかったため、3年度の会議資料に入れた。	B	・教師自己評価に「研修や訓練をすべき」「回覧のみでなく」という意見があるので、体制は整っているが、実際に対応ができるか疑問である。会議で話し合い、様々な意見が反映される。 ・マニュアルはあるが、研修が不足していると感じているようなので、実践をし、いざという時の対応ができるようにすると良い。

評価項目「学力向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。	A	昨年の本評価3.59から今年は3.60と+0.01。数年続いている授業四原則「姿勢・清潔・礼・整頓」が学年差、学級差なく取り組むことができている。小学校で身につけている指名されたら返事をする習慣を継続していくことを課題としていたが、十分に達成できなかった。	A	・三中の「授業四原則」がかなり定着してきているように思う。授業中の表情や態度がいきいきしていて、さわやかに感じる人が多い。 ・授業4原則が学年差、学級差なく取り組むことができていることはすばらしい。
8	学校は、各教科の指導において言語活動を重視した授業を展開し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。	B	昨年の本評価3.51から今年は3.33と-0.18。コロナ禍による学習活動の制限もあり、一方通行型の授業が増えてしまっている。生徒の作成物を掲示するのも言語活動のひとつであるが、字の誤りを放置することはあってはならない。	B	・学習活動の制限がこれからも続くことが予想されるので、これまでの成果を無駄にしないよう、早急に新たな対応をすると良いと思う。 ・コロナ禍でありできないという評価があるが、先生方が工夫しながら熱心な指導は生徒の力になっている。
9	学校は学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	A	昨年の本評価3.56から今年は3.50と-0.06。生徒アンケート「授業の内容はよくわかる」昨年の3.17が3.12に0.05低下している。学習習熟度にかなりばらつきがあり指導に難しさがあるが、授業で置いて行かれそうな生徒への手だてを組み立てる必要がある。	A	・臨時休校時は、生徒の意欲の差により、格差が広がったことが考えられる。生徒の学力差を埋める手だてを工夫して対応していただくことをお願いしたい。 ・今年度は臨時休校もあり、学習習熟度に個人差があると思うが、今後も1人1人への丁寧な指導をお願いしたい。 ・習熟度のばらつきを把握して、早く改善していけると良い。
10	学校は、英語(英会話)の授業の充実するなど、グローバル化に対応できる児童生徒の育成(国際理解教育の推進)に努めている。	B	昨年の本評価3.41から今年は3.26と-0.15。昨年度未配置だった英語加配教員が本年度当初から配置されたことはよかった。2年でタブレットを用いてアメリカとのオンライン授業を2クラス先行実施したが、他クラスからも外国の方と直接話す授業を受けたいという声がある。その後全クラスで実施した。	B	・オンライン授業の取組など工夫して実践している。国際理解教育については全教科等で、何ができるかを考え、学校全体でしかけることが大事と思う。 ・アメリカとのオンライン授業後の生徒の意欲向上がすばらしい。

評価項目「豊かな心の育成」

No.2

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いができるよう指導している。	B	昨年の本評価3.40から今年は3.38と-0.02。教職員の評価では、おおむね「あいさつはよくできている」というプラス評価が多い。一方、生徒アンケート「あいさつをしている」が昨年度3.73が3.67となり-0.06である。また、保護者アンケート自由記述に、あいさつの項目の低下の指摘が3名からあった。生徒、保護者の声に耳を傾けどんな指導をしていくか考える必要がある。	B	・あいさつをよくする生徒とそうでない生徒、教職員格差が学校全体の評価が別れる原因になっているかもしれない。 ・「あいさつ」の効用を学校全体で再認識し、教職員自ら場に応じた言葉遣いを心がけることが近道である。 ・生徒はAであるが、保護者からの指摘にあるように年々あいさつが少なくなってきたと感じることもある。引き続き大人たちが手本となりあいさつをしていくことが大切である。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って学校生活を送れるような環境を整備している。	A	昨年の本評価3.43から今年は3.48と+0.05。学校教育目標の一節「心豊かに」を実現するために栽培活動、道徳に力を入れ、良い人間関係をつくるように努めている。いじめ調査で早期発見、早期対応に努めている。不登校生徒数も多く、相談室利用が多い。相談室の運用方法の改善が課題である。	A	・いじめや意地悪な行為には、学校全体で早期発見、早期対応でよく取り組んでいると思う。不登校については、コロナ禍もあり、原因がより複雑になっているかも。学校全体で取り組むことが大事である。 ・いじめを撲滅することは不可能だが、深刻なものも耳にする。SNSを介したものなど指導も難しくなっているが、もっと家庭を巻き込んで指導しても良いのではないかな。
13	学校は教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規律意識を高める指導を行っている。	A	昨年の本評価3.37から今年は3.48と+0.11。生徒アンケートで「規則を守っている」が昨年3.85で今年も3.84でとても高い評価が出ている。生徒は学校教育目標を意識し、規律意識を高く持ち学校生活を送っている。教師の言葉遣いについて、教職員と保護者のアンケートの自由記述に指摘があった。丁寧な言葉遣いをしなければならない。	B	・学校全体が落ち着いていると感じる。全教職員が自ら範を示すことが生徒の規範(規律)意識を高めると考える。特に教師の言葉遣いは学校を明るく、穏やかにしていく。 ・規律意識が高まっていることはよい。毎年、教職員の言葉遣いについて指摘があることが気になっている。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	A	昨年の本評価3.71から今年は3.77と+0.06。体育の授業で瞬発力向上のため短縄跳びを体育科全体で行っている。部活動ガイドラインを遵守して活動している。昼休みの校庭遊びが活発でボールがポロポロになるほどである。昨年度の卒業記念品として校庭でのボール遊び用ボールを贈呈していただいた。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動や昼休み時間の活動は非常に意欲的で良いと思う。 ・教員による指導に加え、部活動・休み時間での運動により体力向上ができていることは評価できる。 ・毎年高評価ですね。 ・学校ブログで生徒が活発に部活動や校庭遊びに取り組む姿を見て安心した。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	A	昨年の本評価3.76から今年は3.77と+0.01。給食だより、地産地消、食品ロスを減らす取組などを行った。給食試食会はコロナ禍で中止した。給食で残菜を出さない意識が各学年の職員とも高く、喫食率がきわめて高く調理員から喜ばれている。無理矢理食べさせることがないようにしている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「食育インフォメーション」は非常にわかりやすい。給食の設備も十分でない中、喫食率の高い給食を提供しているのはすばらしい。 ・生徒アンケートで「給食が少ない」と感じるの、おいしく食べているからであると思う。 ・ホームページで献立の写真、産地などを公開していて、食に関心を持つきっかけになっていると思う。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	B	昨年の本評価3.62から今年は3.35と-0.27。コロナ禍のため10月の学校公開日と11月の彩の国教育週間の時の授業日を学校公開4日間公開とする計画を中止した。三中学校区ふれあい連絡協議会を核に町内会、学区内小学校、高校と連携が緊密にとってきたが、今年度の計画事業は中止した。地域住民の声には迅速、誠実に対応した。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で保護者や地域の方が学校に出向く機会が少なかったため、やむなしと考える。地域や保護者の意見には耳を傾け、適切に対応していると思う。 ・withコロナの時代を乗り切っていくために、地域とのつながりにも新しい形があるのかもしれない。 ・保護者からの意見を聞く機会は必ずしも多いとは言えない。保護者からの意見とそれに対する学校側の考え方を示すことができればと思う。
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	A	昨年の本評価3.60から今年は3.77と+0.17。学校だより、学級だよりでの学校の様子の周知に努めている。コロナ禍で保護者の来校が著しく制限されている中、ホームページの「学校ブログ」というコーナーで、生徒の活動の様子を動画で日々アップしている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・見る人の興味をそそる素晴らしい学校ブログですね。先生が感心した生徒のつぶやきみたいなものを載せて、そこから教育方針を理解していただくのもひとつの発信方法だと思う。 ・学校に直接いけないことが多いので、「学校ブログ」は様子がわかって良い。 ・学校ブログが非常にすばらしい。活気ある三中を感じることができる。保護者評価がBであるのは残念だった。
18	学校は、学校応援団組織を活性化させるとともに、保護者や地域と連携して声かけ運動、美化活動、不審者対策など、計画的に実施している。	B	昨年の本評価3.67から今年は3.24と-0.43。PTA副会長が学校応援団コーディネーターを務め学校応援団活動を推進している。特にボランティア委員会が緑化、バザー、朝の声かけ、お祭りパトロール、図書館補助、行事手伝いなど活発に展開している。今年度はコロナ禍のため活動を自粛せざるをえなかった。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、活動したくても制限せざるを得ないことも多かったと思う。今後もこの状況が続くと思うので工夫して「できることはないか」など、皆でアイデアを出し合い、少しでも活動できると良いと思う。 ・コロナ禍のため現状は仕方ない。この中で、来年度できることは何か、先を見据えて計画すると良いと思う。 ・今年は様々な行事がなくなり、PTAも大変だったと思う。来年度の活動に期待しています。